

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立戸祭小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

① 国語	98	人
② 算数	97	人
③ 理科	98	人

5 留意事項

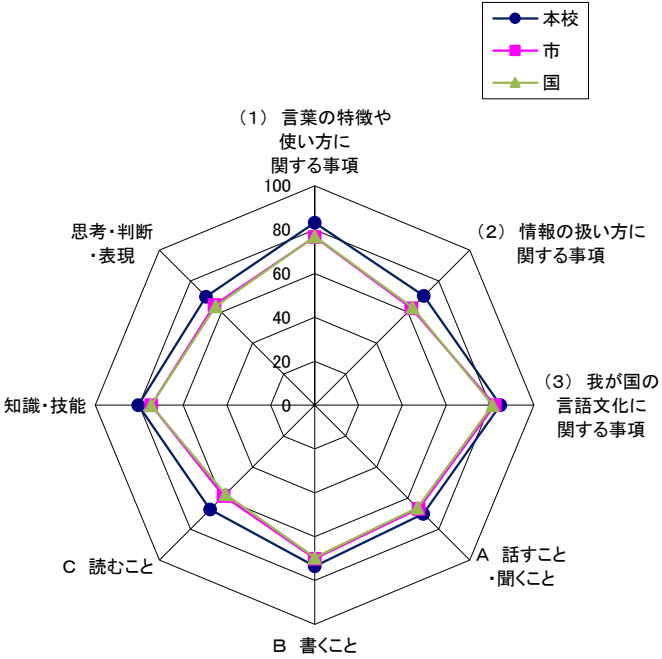
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立戸祭小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	83.2	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	70.4	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	84.7	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	70.1	67.0	66.3
	B 書くこと	73.5	70.0	69.5
	C 読むこと	67.3	58.6	57.5
観点	知識・技能	80.4	74.5	74.5
	思考・判断・表現	70.0	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

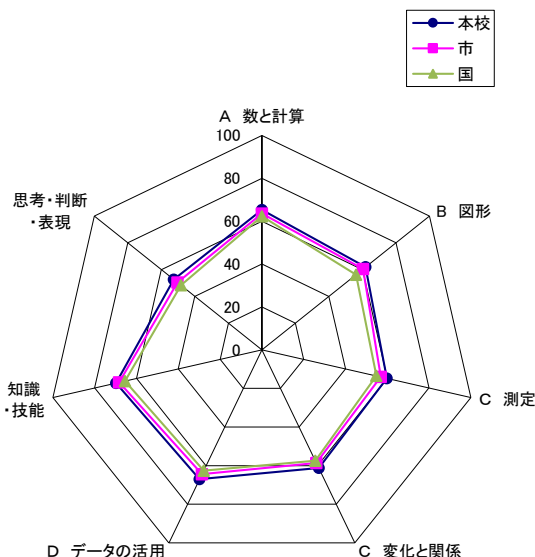
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	○平均正答率は、全国平均を6.3ポイント上回っている。 ○●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができていないが、無解答の児童もみられる。	・定期的に漢字の復習を取り入れたり、一人一台端末で繰り返し練習をしたりして定着を図る。 ・日頃から学習した漢字の意味を辞典で調べたり、その漢字を使った短文を作る練習を取り入れたりすることで、慣れ親しませる。 ・日記や作文などの文章の中で正しく漢字を書いたり、主語と述語を正しく理解して使用したりできるように、継続的に指導をしていく。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	○平均正答率は、全国平均を7.3ポイント上回っている。 ○情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、正しく使うことができていない。	・児童が、自ら問題意識をもち、問題解決の見通しを立て、必要な情報を収集し、情報を読み取り、情報を分類・整理してまとめる学習活動を授業内に構成していく。 ・「情報の扱い方にに関する事項」と「読むこと」を関連させた授業づくりを進め、情報と情報の関連付けの仕方や語句と語句との関係の表し方の定着を図っていく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○平均正答率は、全国平均を13.3ポイント上回っている。 ○時代や年代とともに言葉が変化していることを理解し、解答することができていない。	・「親子読書」や「チャレンジ図書」、「朝の読み聞かせ」等の本校独自の活動を通して、読書活動の充実を図る。その中で様々な疑似体験をすることで言葉の使い方を理解する場面を設ける。
A 話すこと・聞くこと	○平均正答率は、全国平均を3.8ポイント上回っている。 ○資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができていない。 ○目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関連付けたりして、伝え合う内容を検討することができていない。 ●話し手の考えと自分の考えを比較してまとめる問題の無解答率が県平均よりも高い。	・発表をする場面では、要点をまとめて筋道を立てて話す指導を行っていく。また、聞き手は発表者の意図や重要な所を理解できるように意識して聞けるよう指導していく。 ・発表やスピーチ等の話す活動をする際に、質疑応答の時間を設けることで、より詳しく話せるよう指導していく。
B 書くこと	○平均正答率は、全国平均を4ポイント上回っている。 ○目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができていない。 ●調べたことをもとに説明する選択問題では、解答率が低い。	・授業の中で、自分の考えを理由を明確にしながらいったり、友達と文章を読み合ったりする活動の充実を図っていく。自分や友達の書いたものが、目的や意図に沿っているのか、互いに吟味し合う場を意図的に設けていく。 ・学習のまとめや振り返りの際に、調べたことや読み取ったことを理由や事例にして自分の考えを書く活動を取り入れる。
C 読むこと	○平均正答率は、全国平均を9.8ポイント上回っている。 ○多くの資料から必要な情報を見つけ出し、適切に解答することができていない。 ●「目的に応じて、文章などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける」設問では、無解答率が14.3%と高い。	・今年度は物語文の読み取り問題はなかったが、表現の意図や工夫、効果などを考えさせるような授業展開をしていく。 ・様々な資料を活用した読み取りを、今後も授業の中で取り入れていく。自分で資料を作成する活動と関連させていくことで、表現力、読解力の向上に努める。

宇都宮市立戸祭小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	65.3	63.6	62.3
	B 図形	61.9	60.4	56.2
	C 測定	59.8	56.9	54.8
	C 変化と関係	61.2	58.6	57.5
	D データの活用	67.0	64.4	62.6
観点	知識・技能	69.8	68.3	65.5
	思考・判断・表現	52.6	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

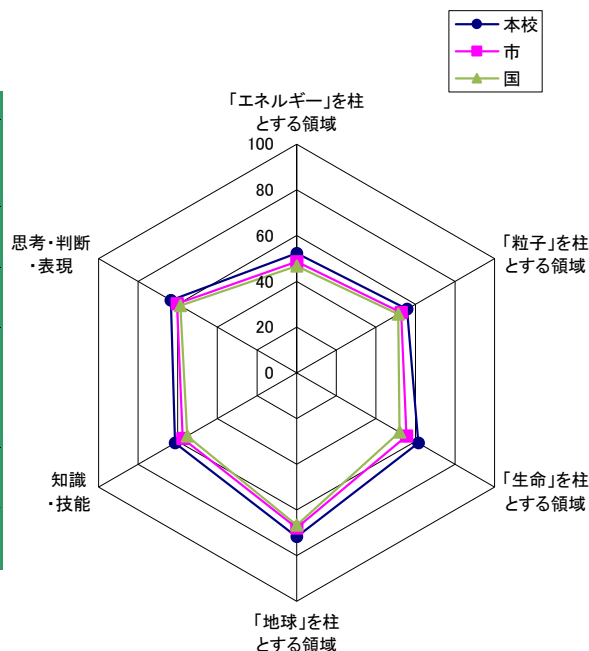
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>○平均正答率は全国平均を3ポイント上回った。</p> <p>○「0.4+0.05」について、整数の加法で考えるときの共通する単位を書く」設問では、平均正答率は79.4%で全国より5.3ポイント高い。</p> <p>●3/4+2/3について、共通する単位分数と、3/4と2/3が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く」設問では、平均正答率は25.8%で、全国とほぼ同程度であった。また無解答率も高かった。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・基礎的な計算の仕方や計算のきまりについて、確実に身に付くまで指導する。</p> <p>・無解答を減らすため、問題文のキーワードに下線をひいたり、簡単な図を描いたり、知っている情報から順に書き出したりと具体的なステップを指導し、どう考えればヒントを見つけられるか、どのようなアプローチをすればよいのか指導する。</p>
B 図形	<p>○平均正答率は全国を5.7ポイント上回った。全ての設問で県・全国の平均を上回っている。</p> <p>○「方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ」設問では、平均正答率は60.8%で全国より10.6ポイント高い。</p> <p>○●「五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く」設問では、全国よりも8.4ポイント高いが、正答率は45.4%と低い。</p>	<p>・今後も図形に関する興味・関心を高め、意欲的に取り組めるようにする。</p> <p>・基本的な事項をどのように応用していけるかを考えた発展的な問題にも取り組ませていく。</p> <p>・図形に関しても、既習事項をもとに自分なりの考えをもてるよう、ヒントを示して考える時間を確保したり、友達と学び合いながら課題を解決する場を設けたりする。</p>
C 測定	<p>○平均正答率は全国を5ポイント上回った。</p> <p>○「使いかけのハンドソーブがあと何プッシュすることができるのか調べるために、必要な事例を判断し、求め方を書く」設問では、平均正答率は52.6%で全国より3.9ポイント高い。</p> <p>○はかりの目盛りを読む設問の平均正答率は、67%で全国より6.1ポイント高い。</p>	<p>・答えの導き出し方を説明する場を設定し、問題の意図を正確に読み取る力を育成し、複合的な計算問題への対応力を向上できるようにしていきたい。</p> <p>・はかりを使う具体的な場面を提示し、その重要性を理解させたり、測定器具の扱い方を丁寧に指導したりして、実生活に役立つ知識として測定の概念を深く理解できるようにしたい。</p>
C 変化と関係	<p>○平均正答率は全国平均を3.7ポイント上回った。</p> <p>○「新品のハンドソーブが空になるまでに何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を選ぶ」設問では、平均正答率は87.6%と高く、全国を4.8ポイント上回った。</p> <p>●「10%増量したつめかえ用のハンドソーブの容量が、増量前の何倍かを選ぶ」設問では、全国を少し上回っているが43.3%と正答率が低かった。</p>	<p>・日常生活の具体例を示したり、複合的な問題にもチャレンジさせたりして、単なる計算技能の習得に留まらず、実生活の役立つ知識として数量の関係を深く理解できるようにしたい。</p> <p>・ドリルやAIDドリルなどを使用し、基本的な計算の練習問題を多様な形式で繰り返しできるようにし、割合の概念をしっかりと定着させ、「増量」「～の何倍」など言葉の使い分けを理解させたい。</p>
D データの活用	<p>○平均正答率は全国を4.4ポイント上回った。</p> <p>○「示された表から、『春だいこん』や『秋冬だいこん』より『夏だいこん』の出荷量が多い都道府県を選ぶ」設問では、平均正答率は80.4%で、全国の平均を8.8ポイント上回った。</p> <p>●「都道府県Aのブロッコリーの出荷量が増えたかどうか調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く」設問では、全国よりも4.1ポイント高いが、正答率は35.1%と低い。</p>	<p>・それぞれのデータの特徴や活用する場面を考え、目的に合わせて必要な情報を選択できるようにする。</p> <p>・調べ学習などの機会を逃さず、グラフや表を使ってデータを分類する活動を意識的に取り入れていくようにする。</p> <p>・答えを出すだけではなく、なぜそうなったのか、どこからそのことが分かるのかを明確に意識させた授業を展開する。</p>

宇都宮市立戸祭小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	52.3	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	55.8	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	61.5	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	71.8	67.9	66.7
観点	知識・技能	61.4	57.5	55.3
	思考・判断・表現	63.5	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	<p>○平均正答率は、全国を5.6ポイント上回っている。</p> <p>○●「アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ」問題の正答率は20.4%と低い。全国よりも9.8ポイント高い。</p> <p>●「ペルをたたく装置の電磁石について、電流が流れる磁力を強めるため、コイルの巻数の変え方を書く」問題の正答率は、全国よりも7.6ポイント低い。</p>	<p>・単に「電気を通す」「磁石につく」という知識だけでなく、日常生活での活用例(例:アルミは鍋に、鉄は釘に使う理由)と結び付けることで、学習への興味・関心をさらに高める。</p> <p>・知識の定着は一定レベルにあるが、それを論理的に記述したり、具体的な現象に応用したりする力が不足気味なので、実験結果を「根拠」として考察し、自分の考えを「論理的に説明」する記述活動を強化する。</p> <p>・「コイルの巻き数を増やす」といった実験を実際に行い、結果を数値や数量で表す(例:クリップが何個ついたか)ことで、思考を具体化させる指導を行う。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>○平均正答率は、全国を4.4ポイント上回っている。</p> <p>○「水の結晶について、温度によって水の状態が変化する」という知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ問題の正答率は、全国平均よりも11.9ポイント高い。</p> <p>●「海にある氷がとけることについて、氷が氷になる温度を根拠に予想しているものを選ぶ」問題の正答率は、全国よりも2.7ポイント低い。</p>	<p>・知識を定着させるだけでなく、ロウや食塩水など他の物質の状態変化と比較する活動を通して、概念の理解をより確かなものにする。</p> <p>・学んだ知識を具体的な現象に応用する力やその根拠を明確に述べる力が不足している点が見られるので、「なぜそうなるの?」「その考えの理由はどこにある?」と問いかけ、根拠に基づいた思考を促す指導を強化する。</p> <p>・「冬に池の水が凍る」「夏にジュースに氷を入れる」など、身近な事象と理科の知識を結び付け、「この現象を説明するにはどの知識を使えばよいか」を考えさせる機会を増やす。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>○平均正答率は、全国を9.5ポイント上回っている。</p> <p>○「ヘチマのおしべとめしべについて選び、受粉について書く」問題の正答率は、全国平均よりも13.0ポイント高い。</p> <p>○「ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験において、条件を制御した解決の方法を選ぶ」問題の正答率は、全国平均よりも12.5ポイント高い。</p> <p>●「レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気づきを基に、見いだした問題について書く」問題では、無解答率が11.2%と他の設問よりも高い。</p>	<p>・植物の成長だけでなく、動物の行動や生命の連続性(親から子へ)といったテーマでも、同様の体験的な活動や探究的な活動を導入する。</p> <p>・知識や思考力は高いものの、それを自ら課題として設定し、記述する力に課題があるので、授業で「なぜだろう?」「次は何を調べたらよいだろう?」といった問いを児童に投げかけ、自ら探究のテーマを見付け出す活動を積極的に取り入れる。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>○平均正答率は、全国を5.1ポイント上回っている。</p> <p>○●「赤玉土の粒の大きさによる水のしみこみ方の違いをまとめたわけについて、結果を用いて書く」問題の正答率は、全国平均よりも7.9ポイント高いが、無解答率は10.2%と他の設問よりも高い。</p>	<p>・土の性質と水の浸透に関する学習を、防災や農業など、身近な事柄と関連付け、社会とのつながりを意識させていく。</p> <p>・分かったことや考えたことを記述する力、特に、「実験結果を根拠として用いる」ところに課題が見られるので、授業では、実験後の考察を重視し、「この結果から何が言えるか?」「なぜそう言えるのか?」「実験結果のどこを見て判断したのか?」など、根拠を問う指導を強化する。</p> <p>・自分の考えを論理的にまとめる力を養うために、実験レポートの作成をより丁寧に行う。</p>

宇都宮市立戸祭小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べていますか」の質問に対して、「食べている」と回答した児童の割合は92.2%で、県や全国の割合よりも8ポイント上回っている。また「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日同じくらいの時刻に起きていますか」の質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合は、県や全国の平均とほぼ同じであった。家庭での協力のおかげで規則正しい生活習慣が身に付いている。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対して肯定的回答をした児童の割合は、100%で県や全国の平均を上回っている。今後もいじめゼロを目指して取り組んでいきたい。

○「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」の質問に対して、1時間以上と回答した児童の割合は66.7%で、全国と比べて12.7ポイント上回っている。また「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」の質問に対しても、1時間以上と回答した児童の割合は58.8%で6ポイント県や全国の平均を上回っている。家庭学習の習慣が定着してきている。今後も児童の家庭学習の意欲向上が図れるように指導を充実させていきたい。

●「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか」の質問に対して、30分以上読書をする児童の割合が27.4%で、県や全国を3ポイントほど下回った。一方で、1時間以上読書をする児童の割合は18.6%で県や全国を上回っている。さらに、10分より少ないか全くしない児童が依然として47%の割合で存在する。引き続き、読書への興味関心を高めるための取り組みを継続して行っていきたい。

○「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」という質問に対しては、「ほぼ毎日」と回答した児童の割合が69.6%で県や全国を20ポイント以上も大きく上回っている。また自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って、文章を作成したり、情報を収集・整理し、発表のスライドを作成したりすることができるかと回答した児童が県や全国の平均を大きく上回っている。各教科等について、PC・タブレットを効果的に使用できる場面を吟味し、活用機会を増やせるようにしたい。またICT活用のよさを感じられるようにし、情報活用能力を高めていきたい。

○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の質問に対して、「当てはまる」と回答した児童の割合は、55.9%で、県や全国の割合よりも15ポイント高い。このことから、本校が「学び合い」を通して、より主体的に学ぶ児童の育成を目指してきたことが、よい結果につながっていると考えられる。今後も、各教科等を通して、友達や周りの人の考えを大切にして、友達と関わり合いながら課題の解決に取り組めるよう工夫していきたい。

○「国語の勉強は好きですか」の質問に対して肯定的回答をした児童の割合は、県や全国の平均程度であるが、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問に対して、肯定的回答割合は98%と県や全国の平均を上回った。

●「算数+Aの勉強は好きですか」の質問に対して、肯定的回答割合をした児童の割合は、52%と全国よりも5.9ポイント下回った。「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問に対して、肯定的回答割合は97%で全国の平均を5.4ポイント上回った。児童の興味・関心を引き出すことができるような教材の工夫が必要である。

○「理科の勉強は好きですか」の質問に対して肯定的回答をした児童の割合は、89.2%で全国よりも9ポイント上回った。「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問に対して、肯定的回答割合は83.3%と県や全国の平均を少し上回った。知識を実社会と結び付けられるようにし、探求的な学習を取り入れていきたい。

宇都宮市立戸祭小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・自ら考え、伝え合い、理解し実践する児童の育成 ・児童が納得と達成感を得られる工夫 ・すべての児童が発言できる学習形態の工夫	・全員が理解できるように、課題提示を工夫し、学習の見通しをもたせ、授業で何をすればよいのかを明確にした授業を展開する。 ・伝え合う活動の充実を図り、児童が学んだことを自分の言葉に言い換える場を設け、考えを深められるようにする。 ・「相手への伝え方」のレベル表を作成し、伝えることを児童に意識させるとともに、友達の意見や考えを聞き比べ、考えを深める場となるよう指導する。 ・朝の学習時間に「計算オリンピック」を行い、基礎的・基本的な力を養う。	・国語、算数、理科において、市の平均正答率と同程度か、それより高い。 ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の質問に対して、「当てはまる」と回答した児童の割合は、約6割であり、良好であった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・記述式の解答問題やデータ等を読み取る問題が苦手である。	・授業の中で、正答かどうかだけでなく、理由や根拠等を明らかにすることを意識できるよう指導する。 ・類似の学習課題において、スモールステップで指導を図る。	・短答式の解答だけでなく、文章などを書く解答方法も意図的に授業に取り入れる。 ・正答か否かに関わらず自分で考えてそれを表現することの重要性を、全職員同一歩調で児童に伝えていく。 ・友達の意見を、最後まで共感的に聞くことを徹底していく。